



# 大字誌づくりを目指して

大槻, 守

---

**(Citation)**

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 11:11-19

**(Issue Date)**

2013-02-02

**(Resource Type)**

conference object

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81004427>



2013. 2. 2

地域連携協議会

## 大字誌づくりを目指して

香寺歴史研究会 大槻 守

はじめに

ムラ社会の崩壊という現実

⇒ 伝統的な生活文化を記録し伝える（大字誌）

⇒ 現実の生活を見直し再創造する（まちづくり）

大字誌への関心………沖縄の場合

### 1. 香寺町史『地域編』を編纂して

(1) 大字誌の構想から始まる（編纂の基本計画）

——町史の構想：通史編 1・地域編（大字誌） 2・資料編 1の全4巻

地域編：各集落の歴史・民俗・文化財等のまとめと史料を収録する

いわゆる「地理編」とはしない

(2) 町史編集協力者を委嘱する

——20集落と5自治会（新興住宅）

『ムラ的生活史』3冊の編集刊行

(3) 『地域編』全1巻は3地域区分で編集して刊行

——山手編・台地編・川手編（大字誌を再編成する）

### 2. 香寺歴史研究会の活動

(1) 第1次歴史研究会の結成………2004年10月

『地域編』完成を受けて（刊行は2005年3月）

会員は町史編集協力者が中心となる

⇒ 目標の一つは地域編を発展させて大字誌を完成させること

(2) 第2次歴史研究会の発足………2006年5月

姫路市への合併に伴い再発足（合併は2006年3月）

(3) 調査研究活動

◎ 石造物の調査 ⇒ 『香寺町の石造物』刊行（2009年）

◎ 年中行事の調査 ⇒ 『香寺町の年中行事』刊行（2010年）

### 3. 町史活用に向けての4本の柱（町史完成記念シンポジウム・2011年）

(1) 大字誌編纂

(2) 香寺歴史研究会の活動

(3) ムラの史料を読む

(4) 歴史遺産の保存

4. フォーラム「大字誌をつくる」

(1) 第1回の開催……………2011. 2. 10

実践報告——町内2（相坂・北恒屋）、町外2（福崎町・神河町）

(2) 第2回の開催……………2013. 2. 13（予定）

実践報告——町内2（岩部・土師）

5. 大字誌の編纂

自治会の事業として取組む

—大字誌としての性格・財源の問題

—編集の中心は香寺歴史研究会会員が担う

(1) 刊行済み——相坂自治会（2010年3月）

(2) 編纂中——岩部・土師・田野3自治会

◎今後の広がり期待

【文献紹介】

# 集落誌を作ろう！

香寺歴史研究会は集落(大字)の歴史を研究し、集落誌(大字誌)を編さんすることを目的の第一にあげています。町史『村の記憶』を編さんするにあたって各集落の史料を整理してきましたが、これらの史料を活用して各集落で集落誌が編さんされるようになったらどんなに素晴らしいでしょう。『村の記憶』編さんでその手がかりは十分得られたと思っています。

集落誌を編さんする試みは全国各地で行われていますが、ことに沖縄では「字誌づくり運動」が盛んであると、神戸大学の末本誠先生からお聞きしました(末本誠「香寺町『ムラ』の生活史」への期待)『ふるさと香寺』第4号参照)。これによりますと、平成十二年(二〇〇〇年)末で沖縄県全集落一〇〇〇のうち二割で既に字誌を完成させ出版しているということでした。

手元に沖縄県名護市が発行した『字誌づくり入門』(平成元年初版)があります。字誌づくりの流れ、小地名の調べ方、字誌の構成、字誌づくりの体験記で構成されていて、イラスト入りの大変わかりやすい手引きとなっています。「字誌づくりは大変素晴らしい地域文化活動であり、ぜひ取り組んでみたい」という思いが名護市内の字誌づくりを動かしている

書かれています。その意気込を後押ししようとするのがこの本です。ことに体験記には完成に向けてどう取り組んできたかが、具体的に書かれていて参考になります。

沖縄の字誌の中でも大部の一つが『辺野古誌』(平成一〇年・B5判七五五ページ)で、当室にもあります。この村は今、普天間基地移転先としての議論の焦点となっているところで、マスコミでもしばしば取り上げられているところです。それは

『辺野古誌』(左)と『字誌づくり入門』(右)



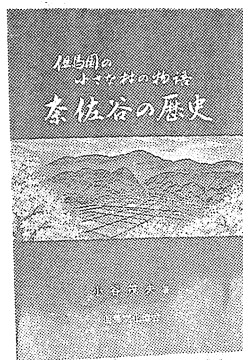
おくとしてこの字誌は年表を含めて全二一章から構成されており、非常に内容が豊かです。地名と屋号、農漁業などの生業や年中行事、婚姻や葬礼などの人生儀礼など暮らしの変化を詳しく記録していますが、沖縄だと思わせるのが移民・出稼ぎと戦争に関する記述です。戦争ですべてを焼き尽されたムラだけに、古老の記憶に頼るほかなかった

ということですが、その苦心がしのべれます。

当編集室には沖繩以外の集落誌もいくつか集めています。一村の集落誌を一冊にまとめたものとしては石川県の『柳田村の集落誌』と『穴水町の集落誌』があります。町史編さんの資料としてまとめられたもので、各集落の歴史と寺社・史跡・伝承・人物などが記述されています。単独の集落誌では、『佐渡郡新井穂・青木の歴史』（新潟県）が田畑屋敷や山・川・しきたり等の歴史を史料を混えて書いています。『集落誌せきぞわ』（福島県）はむらの生いたち・民俗文化・生業の記述を中心にしていますし、『わかさ名田庄下村集落誌』（福井県）は歴史のほか民俗（社寺・民俗芸能・民話・民謡・民具）が詳しく、ことにユーマアのある伝承を多く採集しているのが特色です。『浜野のあゆみ』（滋賀県）は大字浜野自治会の記録をもとに年月日を追って年表風に記述した実録編が変った編集法です。県内でもいくつも集落誌が作られているようです。『加美町箸荷村落史』は棚田の村で知られた集落の歴史で、村に残された記録・文書を取り入れて、社寺・農業・生活の変化をまとめています。『昔はなあ．．．』というユニークな題名の八千代町三原の聞き取りは伝統産業の凍り豆腐や織物をはじめ、伝統行事・農業・昔の遊び・戦争のころなどの話に及んでいます。この本は下三原の暮らしを調べる会の会員が二年かけて数十人の人たちから聞き取ったということです。

最近出た集落誌に郷土史家が書かれたものですが、但馬の『長板村史』（香美町）と『奈佐谷の歴史』（豊岡市）があります。前者は明治頃までの歴史にまつわる話題を取り上げ、ことに神社・阿弥陀堂・城跡・山論については少し詳しく書かれています。後者はやや系統的に、古代から近世までの歴史を述べ、近現代では農業団体・学校を取り上げ、戦後の各種事業に及んでいます。最も新しい『棚原見てある記』（丹波市）はパワーアップ事業推進委員会というむらおこしの組織が調査・編集したものだといいい、名所旧跡（寺社など）・自然遺産・古文書・伝統行事などが取り上げられています。

私たちの周辺では区長・協議委員が編集委員となつてまとめた『高橋部落史』があります。『福崎町史』を主として引用して近世の歴史を中心に村行政のしくみや年貢・寛延一揆・村明細帳などを取り上げ、近現代では小作慣行や高橋弾薬庫・丸紅の進出を述べています。『播磨・福本史誌』は福本歴史文化研究会が研究成果を編さんしたもので、公民館完成記念の発刊で



『長板村史』（左）と『奈佐谷の歴史』（右）

す。内容は福本遺跡・福山伝説・福本藩のおこり・近代（諸施設）で絵図や写真が多く、各種文献を引用しながら正確でわかりやすい記述になっています。

本の体裁からみますと、これらの集落誌は百ページ前後から数百ページに及ぶものまであり、大きさもA5が主流ですが、B5や中にはA4の大判もあります。手作り感のある本は取りつきやすく、どの本にも苦勞して集められた写真が多く、地図を工夫したり、カラーの口絵も増えてきています。完成したときには、さぞ皆さん喜び合われたことでしょう。

そして、どの集落誌をみても、明治以後、ことに戦後のはげしい移り変わりをうつつしており、昔の暮らしとその後の変化を記録しておきたい、「今、私たちには・・・忘れられようとしている時代の仕事や生活の様子を貴重な体験と共に次の世代に伝える義務がある」「昔はなあ・・・」という気持ちが強く表れています。また、それはその地に生まれ育った者でなければできないことでもあります。そして、こうした事業は「この貴重な文化資源を新鮮なエネルギーとして、美しく豊かな故郷をもっと魅力ある地域社会につないでゆくこと」(『棚原みてある記』)に



『播磨・福本史誌』(左)・『高橋部落史』(中)・『昔はなあ・・・』(右)

あるとの願いを持っておられることを感じるので。

香寺町では既に史料の調査がある程度進んでいますので、利用できる史料がかなりできています。そして、何よりも町史

『村の記憶』の編さんに協力された方が各集落におられます。最近、こうした成果を生かし、集落誌をつくらうという動きがあると、いくつかの集落の方からお聞きするようになりました。その代表例が本誌でも紹介されている相坂です。香寺歴史研究会会員と集落の自治会とが、協力されれば、思いのほか早く実現するのではないでしょうか。

香寺町史通史編は平成二十一年完成をめぐってしています。通史編編集には会員の皆さんや住民の方々の協力が欠かせません。この協力活動を通して、さらに集落誌をつくらうという声が集落で高まってくるのではないかと期待しています。平成十九年度がそうした確かな一歩の踏み出される年となることを願っています。

なお、本文中で取り上げた文献は当町史編集室に所蔵していますので、いつでもお読みいただけます。貸し出しもしますので、遠慮なくお申し出ください。(大槻 守)

# 相坂の歴史を語ろう会

駒田新安

## 一 相坂自治会で企画立案

相坂自治会は、「相坂むらづくりマスタープラン」の三本柱の一つに「魅力あふれる村づくり」をあげ、むらの歴史「大字史」の編さんを目指すと掲げている。そこで歴史研究会のメンバーが中心となって「相坂の歴史」に興味ある人々に集っていただき、語りあう機会をもとうと計画した。

この方針が十八年四月二十三日の自治会総会で承認され、十二月十七日の協議員会で「相坂の歴史を語ろう会」として実施することが決定した。

日時 十九年一月二十一日(日) 十二時から  
場所 相坂公民館  
姫路市広報一月号配布時に「語ろう会」のチラシを全戸に配布し、参加を全住民によびかけた。

## 二 事前打合せ


一月十四日、自治会長、副会長、歴史研究会のメンバーが出席して事前打合せを行った。前年十月に「ふるさと再発見ハイ

キング」を実施済みではあるものの「語ろう会」などという初めての試みに果して何人位参加してもらえるか、どんな内容にしようか、どんな進め方にしようか等と皆不安で一杯だった。まず講演を清瀬時博氏にお願いして、演題を「相坂の大字史」とすることにし、また司会を藤原幸男氏になどと役割分担も決めた。

## 三 第一回「語ろう会」実施

当日は早めの昼食を済ませて十二時過ぎに会場となる公民館に入り、和室に暖房を入れて、部屋を暖めた。自治会長や歴史研究会のメンバーで会場の準備をしていると、一人二人と参加者が増えて来た。最終的には二六人であった。

予定通り会は藤原幸男氏の司会で始まり、自治会長挨拶の後、清



### 新春 相坂の歴史を語ろう会

日時 平成19年1月21日  
午後1時より  
場所 相坂公民館

おもしろい話が満載

★真綿な展開から  
ふるさと再発見ハイキングに参加したらおもしろかった  
八節村って何？  
なんで村に2つも氏神さんがあるん？  
この道しるべはいつ頃から、誰がたてた？  
堀田のお宮にあずらしい「石の轡馬」？  
などなど、とんとん展開・知りたいことが広がります。

★つい最近まであった慣習・生活様式を語り継ごう  
冠婚葬祭 農具  
村の行事  
衣・食・住の生活様式や子供の遊びの  
などなど記憶から遠ざかる移り変わる村の様子

★地名・方言が湧いてきます  
おばあちゃんの言う事「わかれへん」？

どなたでも気軽に参加してください

歴史研究会の皆様にお世話になります  
お問合せ先 藤原 幸男 232-6057  
駒田 新安 232-3266

「相坂の歴史を語ろう会」のチラシ



歴史を語ろう会（公民館）

瀬時博氏による講演が約一時間にわたってあった。

講演内容は、

①江戸時代の村の行政

②当時は相坂村（枝村の塩田を含む）・八徳村・谷山新村に分かれていたこと

③谷山新村の開

発

④八徳村の住民のこと

⑤菊寿園のことなど、多岐にわたった。

講演後、司会者から今の講演に関すること、それ以外のこと、なんでもよろしいから「昔こんなことを聞いた」とか、「家にはこんな古い書き物がある」とかがあれば教えてほしいと切り

出すと、参加者から次のような話が出た。

力石 相坂は中垣内の北口家の東側、塩田は西垣内の共同井戸の場所にあったが、今はどちらもない。

銀採掘跡 西の奥の牛飼場のあった山の上あたりに、銀鉱を採掘した跡がある。相坂若都王子神社の入り口（県道角）の岩に銀が含まれていると聞いた。

姓の変更 藤原姓から藤田姓にいつ頃、なぜ変わったか詳細は不明だが、古い墓石に藤原姓が見られる。当日、参加者へは次の資料を配布した。

①相坂地区の史跡と建造物一覧

②香寺町史「村の記憶」を読んでみましょう

#### 四 今後の課題と抱負

今回のテーマ「相坂の大字史」を第一回として、今後も継続自治会、歴史研究会が中心になって、発展させていきたい。子供から大人まで年代を問わず一人でも多くの参加者が集まるような、魅力ある「会」にし、相坂の住民一人ひとりが、「ふる里相坂」を語りついでいきたいと思う。



資料3

『相坂の語りべ』

目次

- 1 むらの誕生むらの移り変わり  
相坂は逢坂を語源とする自然地名
- 2 農作業と農具  
戦前の農業・米づくり  
3 衣食住・生活様式  
服装の移り変わり  
4 冠婚葬祭  
婚礼・葬式  
葬礼  
石場つき歌  
5 方言・遊び  
ここいらへんの方言  
子どもの遊び
- 3 むらの遺跡  
1 建造物  
相坂地区の史跡・建造物  
相坂地区の史跡と建造物一覧  
山の大日さん  
祭上神社移転の経緯と祭祀  
思い出の塩田大歳神社
- 2 石造物  
相坂の主な石造物  
石絵馬  
相坂の墓地  
相坂墓地一覧表  
相坂の旧山道改修記念碑  
武右衛門の道標が教えた歴然の道  
相坂の五輪塔  
新五郎の碑  
駒田翁頌徳碑  
力石
- 2 むらの生活  
1 むらの年中行事  
お稲荷さんの寒供養  
昔の屋台と青年団  
田祭りと亥の子  
むらの湯立てまつり
- 4 伝説・言い伝え  
塩田の古代窯跡と古墳  
狐と稲荷神社のこと  
スリコバチとうわばみ伝説

5 小字名

谷山地名考

地区別字及び通称地名一覧

6 屋号

相坂の屋号

補綴

ふるさと再発見ハイキング 1

ふるさと再発見ハイキング 2

ふるさと再発見ハイキング 3

相坂の歴史を語ろう会

年表

地図

参考文献一覧

文献執筆者一覧

編集後記

編集委員

資料 4

歴史研究会へのおさそい

◎香寺歴史研究会が活動しています

ふるさと香寺のよさを、誇りを、私たちの手で掘り起こし、記録しようという集まりです。ムラの昔と今を一番良く知っているのは、ここに生活している私たちです。ムラの歴史と、大きく変わろうとしている今の姿を記録しておく責任が、私たちにあるのではないのでしょうか。

◎大字誌の作成を目標に

研究会の目標の一つは大字誌の作成です。身近な集落の歴史を、史料を探し、聞き取りをし、現地で確かめ、ま

とめていきたいものです。伝承が忘れられようとしていますし、田んぼも道も変わっています。大字誌は、後世への最大の贈り物になるのではないのでしょうか。

◎入会をお待ちしています

現在会員は五四人です。香寺町の歴史に関心をお持ちの方どなたでも歓迎します。会員の輪を広げることで活動も広がります。町史編集室までお申込みください。

電話 65-2710

『年報 香寺町の歴史』創刊号